

授業概要

発達心理学の基礎知識を習得するとともに、人の発達について多角的に理解することを目指して、各発達段階の特徴や発達の課題について学ぶ。本授業での学びを保育・教育における知識として定着させ、子どもの発達を支える環境や関わり方について考察できるように、現代的トピックを織り交ぜながら講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／発達とは何か
第 2 回	保育・教育実践に関わる発達心理学の基礎理論
第 3 回	発達のメカニズム：遺伝と環境
第 4 回	脳の発達／胎児期の発達
第 5 回	乳児期の発達：運動・知覚
第 6 回	乳児期の発達：認知・言語・情動・愛着
第 7 回	幼児期の発達：自己・言葉・情動
第 8 回	幼児期の発達：認知・心の理解・社会性
第 9 回	児童期前期の発達：認知能力と学習・社会性・道徳観
第 10 回	児童期後期の発達：自己意識・動機づけ・課題と支援
第 11 回	思春期・青年期の発達：身体的・認知的変化と自己概念
第 12 回	成人期の発達：多様なライフスタイルとアイデンティティの再構築
第 13 回	生涯発達心理学の視点と高齢期の発達
第 14 回	文化と発達／家族と発達
第 15 回	発達心理学の現代的課題と全体のまとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ・発達心理学の基礎知識を身につけ、人の発達に関わる重要事項を理解することができる。
- ・発達段階ごとの特徴や発達課題について、とらえることができる。
- ・子どもの発達に関わる環境や学びの過程について考えを深めることができる。

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、意見やコメントを書くなどのワークや、内容に応じてグループディスカッション等も用いて進めていくので、積極的に参加すること。

予習・復習

次回授業のテーマについてあらかじめ知らせるので、テーマの領域について調べておくこと。授業後には、授業中に指定された重要語句について復習し、日常生活の中で生じる出来事と関連づけて覚えられるようにすること。参考文献なども用いて理解を深めること。

評価方法

授業での取り組み（40%）、定期試験（60%）によって行う。授業での取り組みについては、授業内課題などの評価および提出状況、授業への取り組み姿勢なども考慮する。

テキスト

テキストは指定しない。毎回の授業で資料を配布する。授業内で適宜、参考文献を紹介する。